

3. とうもろこし

<飼料用>

(1) DK212 (系統名 SH2112) 1996年
登録番号：(北海道) とうもろこし (飼) 準輸交第53号

セールスポイント

多収で、耐倒伏性がやや強い早生品種である。

来歴：本品種は、フランスのデカルブジェネティクスコーポレーション社が育成したフリント種×デント種の単交配一代雑種である。1991年に雪印種苗株式会社が導入し、1993年より「SH2112」の系統名で各種の試験を行い、1996年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「ダイヘイゲン」並で、「ワセホマレ」並か1～2日遅い。収穫時熟度は「ダイヘイゲン」及び「ワセホマレ」並である。総体の乾物率は「ダイヘイゲン」及び「ワセホマレ」より高い。熟期は早生の中に属する。
2. 耐倒伏性は「ダイヘイゲン」より強く、「ワセホマ

レ」よりやや強い。

3. 発芽は「ダイヘイゲン」及び「ワセホマレ」並かやや遅い。初期生育は「ダイヘイゲン」及び「ワセホマレ」よりやや劣る。
4. 乾総重及び推定TDN収量は「ダイヘイゲン」及び「ワセホマレ」より多い。推定乾物中TDN割合は「ダイヘイゲン」及び「ワセホマレ」並かやや高い。
5. 稈長は「ダイヘイゲン」よりやや低く、「ワセホマレ」並かやや低い。着雌穂高は「ダイヘイゲン」よりやや低く、「ワセホマレ」よりやや高い。雌穂について、年次によっては、包葉先端から子実が顕著に露出する。
6. すず紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」並かやや強く、「ワセホマレ」並かやや弱い。ごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」より強く、「ワセホマレ」よりやや強い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央北部、十勝、網走及び根釧、道北の気象条件の良好な地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 育 (1良-5不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
十 勝 農 試	D K 2 1 2	1.7	8.5	0.0	黄 初	1,179	862	104	28.5	73.0	1993～1995
	ダイヘイゲン	1.0	8.4	4.3	黄初～中	1,149	826	100	27.1	71.9	
	ワセホマレ	1.4	8.4	2.9	黄初～中	994	710	86	27.1	71.4	
北 見 農 試	D K 2 1 2	2.4	8.11	0.6	糊 後	1,305	939	110	27.5	71.8	1993～1995
	ダイヘイゲン	1.7	8.10	3.8	糊 後	1,191	852	100	26.0	71.1	
	ワセホマレ	1.5	8.9	1.7	糊 後	1,165	826	97	26.0	70.4	
上 川 農 試 (土 別)	D K 2 1 2	3.3	8.5	0.0	糊 後	1,445	1,020	123	30.1	70.6	1993
	ダイヘイゲン	2.0	8.4	4.3	黄 初	1,177	827	100	27.1	70.3	
上 川 農 試 (比 布)	D K 2 1 2	2.4	7.24	0.9	黄 後	1,599	1,140	115	28.3	71.5	1994～1995
	ダイヘイゲン	2.0	7.24	8.3	黄 後	1,387	992	100	27.3	71.6	
根 釧 農 試	D K 2 1 2	1.6	8.22	3.0	糊 後	1,045	739	100	27.5	70.1	1993～1995
	ダイヘイゲン	1.0	8.21	23.2	糊 後	1,042	737	100	27.5	70.4	
	ワセホマレ	1.1	8.20	17.4	糊 後	981	690	94	27.5	70.0	
天 北 農 試	D K 2 1 2	2.9	8.19	3.0	糊 後	1,084	778	111	25.8	70.6	1993～1995
	ダイヘイゲン	1.9	8.20	6.2	糊 中	985	700	100	24.0	70.2	
	ワセホマレ	2.1	8.21	4.3	糊 中	990	702	100	24.2	69.6	

参照 1) 北海道農政部編, 平成8年普及奨励ならびに指導参考事項, 27-29 (1996).

(2) **ピヤシリ85** (系統名 SH1302) 1996年

登録番号：(北海道)とうもろこし(飼)準北海道
交第54号

セールスポイント

耐倒伏性がやや強く、すす紋病抵抗性がやや強い早生品種である。

来歴：本品種は、雪印種苗株式会社が育成したデント種×フリント種の単交配一代雑種である。1993年より「SH1302」の系統名で各種の試験を行い、1996年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「ヘイゲンミノリ」並で、「キタアサヒ」並か1～2日早い。収穫時熟度及び総体の乾物率は、「ヘイゲンミノリ」及び「キタアサヒ」並である。熟期は早生の晩に属する。
2. 耐倒伏性は「ヘイゲンミノリ」及び「キタアサヒ」

よりやや強い。

3. 発芽及び初期生育は「ヘイゲンミノリ」及び「キタアサヒ」並である。
4. 乾総重及び推定TDN収量は「ヘイゲンミノリ」並かやや多く、「キタアサヒ」並である。推定乾物中TDN割合は「ヘイゲンミノリ」並で、「キタアサヒ」よりやや高い。
5. 稈長は「ヘイゲンミノリ」並かやや高く、「キタアサヒ」よりやや低い。着雌穂高は「ヘイゲンミノリ」よりやや高く、「キタアサヒ」よりやや低い。雌穂について、年次によっては、包葉先端から子実が顕著に露出する。
6. すず紋病抵抗性及びごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」及び「ヘイゲンミノリ」より強い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は十勝中部、網走内陸及び道央北部である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (1良-5不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収 穫 時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾 物 率 (%)	乾 物 中 T D N (%)	試 験 年 次
						乾 総 重 (kg)	T D N (kg)	同 左 比 (%)			
十 勝 農 試	ピ ヤ シ リ 85	1.7	8.9	0.0	糊後～黄初	1,241	890	101	25.7	71.5	1993～1995
	ヘイゲンミノリ	1.6	8.8	0.1	糊後～黄初	1,229	883	100	26.6	71.7	
	キタアサヒ	1.6	8.10	2.0	糊後～黄初	1,293	911	103	26.2	70.1	
北 見 農 試	ピ ヤ シ リ 85	2.2	8.15	0.1	糊 中	1,265	902	104	26.3	71.1	1993～1995
	ヘイゲンミノリ	1.9	8.15	3.3	糊 中	1,219	866	100	26.8	70.9	
	キタアサヒ	2.2	8.16	0.3	糊 中	1,249	874	101	25.1	69.6	
上 川 農 試 (土 別)	ピ ヤ シ リ 85	3.8	8.9	0.0	糊 後	1,352	943	110	26.1	69.7	1993
	ヘイゲンミノリ	2.8	8.8	0.0	糊後～黄初	1,233	855	100	25.7	69.3	
	キタアサヒ	2.8	8.10	0.0	黄 中	1,332	924	108	26.6	69.4	
上 川 農 試 (比 布)	ピ ヤ シ リ 85	2.2	7.26	0.0	黄中～後	1,573	1,112	101	26.3	70.8	1994～1995
	ヘイゲンミノリ	2.4	7.26	1.9	黄 後	1,560	1,106	100	27.1	71.1	
	キタアサヒ	2.4	7.26	3.6	黄 後	1,572	1,116	101	28.9	71.1	

注) 上川農試の「キタアサヒ」は他の2品種と収穫期が異なる。

参照 1) 北海道農政部編, 平成8年普及奨励ならびに指導参考事項, 30-32 (1996).

(3) **LG2290** (系統名 HE9138) 1996年

登録番号：(北海道)とうもろこし(飼)準輸交
第55号

セールスポイント

多収で耐倒伏性が強い早生品種である。

来歴：本品種は、フランスのリマグレイン社が育成したデント種×フリント種の単交配一代雑種である。1991年

に雪印種苗株式会社が導入し、1993年より「HE9138」の系統名で各種の試験を行い、1996年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「ヘイゲンミノリ」並で、「キタアサヒ」並か1～2日早い。収穫時熟度は「ヘイゲンミノリ」及び「キタアサヒ」並である。総体の乾物率は「ヘイゲンミノリ」並で「キタアサヒ」よりやや高い。

- 熟期は早生の晩に属する。
- 耐倒伏性は「ヘイゲンミノリ」及び「キタアサヒ」よりやや強い。
 - 発芽は「ヘイゲンミノリ」並かやや遅く、「キタアサヒ」並である。初期生育は「ヘイゲンミノリ」及び「キタアサヒ」並である。
 - 乾総重及び推定TDN収量は「ヘイゲンミノリ」及び「キタアサヒ」より多い。推定乾物中TDN割合は「ヘイゲンミノリ」並で、「キタアサヒ」よりやや高い。
 - 稈長は「ヘイゲンミノリ」よりやや高く、「キタア

- サヒ」並である。着雌穂高は「ヘイゲンミノリ」より高く、「キタアサヒ」よりやや低い。
- すす紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」並かやや強く、「ヘイゲンミノリ」よりやや弱い。ごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」及び「ヘイゲンミノリ」より強い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は十勝中部、網走内陸及び道央北部である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (1良-5不良)	絹 糸 抽 出 期 (月日)	倒 伏 (%)	収 穫 時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾 物 率 (%)	乾 物 中 T D N (%)	試 験 年 次
						乾 総 重 (kg)	T D N (kg)	同 左 比 (%)			
十 勝 農 試	L G 2 2 9 0	1.7	8.9	0.3	糊後～黄初	1,348	962	115	26.2	71.1	1993～1995
	ヘイゲンミノリ	1.7	8.8	0.1	糊後～黄初	1,157	839	100	25.5	72.2	
	キタアサヒ	1.7	8.9	2.3	糊後～黄初	1,278	899	107	25.5	70.0	
北 見 農 試	L G 2 2 9 0	2.7	8.16	0.0	糊 中	1,423	1,003	116	26.0	70.1	1993～1995
	ヘイゲンミノリ	1.9	8.15	3.3	糊 中	1,219	866	100	26.8	70.9	
	キタアサヒ	2.2	8.16	0.3	糊 中	1,249	874	101	25.1	69.6	
上 川 農 試 (土 別)	L G 2 2 9 0	2.8	8.9	0.0	黄中～後糊	1,493	1,070	125	29.7	71.7	1993
	ヘイゲンミノリ	2.8	8.8	0.0	後～黄初	1,233	855	100	25.7	69.3	
	キタアサヒ	2.8	8.10	0.0	黄 中	1,332	924	108	26.6	69.4	
上 川 農 試 (比 布)	L G 2 2 9 0	2.2	7.26	0.0	黄 後	1,844	1,326	120	29.8	72.0	1994～1995
	ヘイゲンミノリ	2.4	7.26	1.9	黄 後	1,560	1,106	100	27.1	71.1	
	キタアサヒ	2.4	7.26	3.6	黄 後	1,572	1,116	101	28.9	71.1	

注) 上川農試の「ヘイゲンミノリ」は他の2品種と収穫期が異なる。

参照 1) 北海道農政部編, 平成8年普及奨励ならびに指導参考事項, 33-35 (1996).

- (4) DK474 (系統名 PP1460) 1996年
登録番号: (北海道) とうもろこし (飼) 準輸交
第56号

セールスポイント

やや多収で、耐倒伏性がやや強い晩生品種である。

来歴: 本品種は、アメリカのデカルブ・プラント・ジェネティクス社が育成したデント種×デント種の単交配一代雑種である。カネコ種苗株式会社が導入し、1993年より「PP1460」の系統名で各種の試験を行い、1996年に優良品種となった。

特性概要

- 絹糸抽出期は「P3732」よりやや遅く、「3540」より早い。収穫時熟度は「P3732」よりやや遅れ、「3540」と同程度である。総体の乾物率は「P3732」並か高く、「3540」より高い。熟期は晩生の早に属する。

- 耐倒伏性は「P3732」と同程度で「3540」よりやや弱い。
- 発芽及び初期生育は「P3732」及び「3540」と同程度である。
- 乾総重及び推定TDN収量は「P3732」よりやや多く、「3540」より少ない。推定乾物中TDN割合は「P3732」と同程度で、「3540」より高い。
- 稈長は「P3732」並か低く、「3540」より低い。着雌穂高は「P3732」及び「3540」より低い。
- すす紋病抵抗性は「3540」より強く、「P3732」と同程度である。ごま葉枯病抵抗性は「P3732」及び「3540」より弱い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央中部、南部及び道南の気象条件の良好な地域である。一般栽培に準ずるが、ごま葉枯病に弱いので多発する圃場での作付を避ける。

試験場名	品 種 名	初 期 育 (1良-5不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北海道農試	D K 4 7 4	2.0	8.12	1.6	黄 中	1,829	1,325	107	29.8	72.4	1993～1995
	P 3 7 3 2	2.5	8.10	0.0	黄 中	1,689	1,233	100	27.9	72.9	
	3 5 4 0	2.2	8.15	0.0	黄中～後	1,924	1,379	112	27.4	71.7	
道南農試	D K 4 7 4	2.8	8.6	3.6	黄初～中	1,866	1,328	100	33.4	71.1	1993～1995
	P 3 7 3 2	1.1	8.5	5.7	黄 中	1,862	1,327	100	31.3	71.2	
	3 5 4 0	1.7	8.9	2.4	黄初～中	2,015	1,403	105	29.3	69.5	
滝川畜試	D K 4 7 4	1.1	8.9	1.3	黄 中	1,723	1,240	105	27.2	71.9	1993～1995
	P 3 7 3 2	1.4	8.10	0.9	黄 中	1,639	1,176	100	26.6	71.7	
	3 5 4 0	1.7	8.14	0.7	黄 中	1,877	1,329	113	24.5	70.8	

注) 道南農試の倒伏は、1993年～1994年の2か年の数値(1995年は全倒伏のため除外)。

参照 1) 北海道農政部編, 平成8年普及奨励ならびに指導参考事項, 35-37 (1996)。

(5) DK401 (系統名 DK401) 1996年

登録番号: (北海道) とうもろこし (飼) 準輸交
第57号

セールスポイント

多収な中生品種である。

来歴: 本品種は、アメリカのデカルブ・プラント・ジェネティクス社が育成したデント種×デント種の単交配一代雑種である。カネコ種苗株式会社が導入し、1992年より「DK401」の系統名で各種の試験を行い、1996年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「キタユタカ」より遅く、「3790」よりやや遅い。「P3732」よりやや早い。収穫時熟度は「キタユタカ」「3790」よりやや遅れ、「P3732」並である。総体の乾物率は「キタユタカ」並か高いが、「3790」並かやや低く、「P3732」より高い。熟期は中生の晩に属する。

2. 耐倒伏性は「キタユタカ」より強く「3790」「P3732」よりやや弱い。
3. 発芽は「キタユタカ」及び「P3732」よりやや遅い。初期生育は「キタユタカ」及び「P3732」よりやや劣る。
4. 乾総重及び推定TDN収量は「キタユタカ」より多く、「3790」並かやや多いが、「P3732」並かやや少ない。推定乾物中TDN割合は「キタユタカ」より高く、「3790」及び「P3732」よりやや高い。
5. 稈長は「キタユタカ」「3790」より高く、「P3732」並かやや高い。着雌穂高は「キタユタカ」より高いが、「3790」並かやや低い。「P3732」より低い。
6. すず紋病抵抗性は「キタユタカ」並かやや強く、「3790」より弱い。ごま葉枯病抵抗性は「キタユタカ」及び「3790」より弱い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央中部、南部及び道南である。一般栽培に準ずるが、ごま葉枯病に弱いので多発する圃場での作付を避ける。

試験場名	品 種 名	初 期 育 (1良-5不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北海道農試	D K 4 0 1	3.0	8.9	4.6	黄初～中	1,573	1,150	108	27.8	73.1	1992～1994
	キ タ ユ タ カ	2.0	8.6	7.1	黄 中	1,473	1,060	100	26.6	72.0	
	3 7 9 0	2.3	8.8	0.9	黄 中	1,572	1,139	107	28.3	72.5	
	P 3 7 3 2	2.9	8.11	0.0	黄 中	1,598	1,165	110	27.3	72.9	
道南農試	D K 4 0 1	2.4	8.7	3.4	黄中～後	1,818	1,301	119	33.8	71.6	1992～1994
	キ タ ユ タ カ	1.2	8.3	32.1	黄 中	1,544	1,090	100	27.6	70.6	
	3 7 9 0	1.5	8.4	0.4	黄 中	1,836	1,230	113	32.0	70.7	
	P 3 7 3 2	1.0	8.6	4.9	黄中～後	1,967	1,363	125	32.0	71.1	

試験場名	品 種 名	初 期 育 (1良-5不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収 穫 時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
滝 川 畜 試	D K 4 0 1	2.3	8.9	4.7	黄 初	1,596	1,156	112	26.2	72.4	1992～1994
	キ タ ュ タ カ	1.2	8.8	6.9	黄 中	1,470	1,033	100	23.3	70.2	
	3 7 9 0	1.7	8.9	1.1	黄 中	1,579	1,137	110	26.3	72.1	
	P 3 7 3 2	1.6	8.11	0.9	黄 中	1,588	1,140	110	25.5	71.8	

注) 北海道農試の倒伏は、1993～1994年の2か年の数値(1992年のP3732のみ強風に遭遇して倒伏したため除外)。

参照 1) 北海道農政部編, 平成8年普及奨励ならびに指導参考事項, 37-40 (1996).

(6) **ロイヤルデントオーロラ82**(系統名 TH9128)1997年
登録番号:(北海道)とうもろこし(飼)準輸交
第58号

セールスポイント

多収で、耐倒伏性及びごま葉枯病抵抗性がやや強い早生品種である。

来歴 本品種は、ドイツのクラインワンツレーベン育種株式会社が育成したフリント種×デント種の単交配一代雑種である。1991年にタキイ種苗株式会社が導入し、1993年より「TH9128」の系統名で各種の試験を行い、1997年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「ダイハイゲン」及び「ワセホマレ」より1～2日遅い。収穫時熟度は「ダイハイゲン」並

かやや進み「ワセホマレ」並である。総体の乾物率は「ダイハイゲン」及び「ワセホマレ」並である。熟期は早生の中に属する。

2. 耐倒伏性は「ダイハイゲン」及び「ワセホマレ」より強い。
3. 発芽及び初期生育は「ダイハイゲン」及び「ワセホマレ」並である。
4. 乾総重及び推定TDN収量は「ダイハイゲン」より多い。推定乾物中TDN割合は「ダイハイゲン」並かやや低い。
5. 稈長及び着雌穂高は「ダイハイゲン」より高い。
6. すず紋病抵抗性は「ダイハイゲン」よりやや強い。ごま葉枯病抵抗性は「ダイハイゲン」より強い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は十勝、道央北部、網走ならびに道北の気象条件の良好な地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 育 (1良-5不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収 穫 時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
十 勝 農 試	オーロラ82	1.1	8.2	0.9	黄初～中	1,303	950	115	29.3	73.0	1994～1996
	ダイハイゲン	1.1	8.1	2.8	黄 初	1,137	823	100	28.6	72.4	
	ワセホマレ	1.2	8.1	2.1	黄初～中	982	705	86	29.2	71.8	
上 川 農 試	オーロラ82	1.7	7.24	0.2	黄後～完	1,619	1,155	104	28.4	71.5	1994～1996
	ダイハイゲン	1.7	7.25	5.5	黄中～後	1,553	1,108	100	28.1	71.5	
北 見 農 試	オーロラ82	1.8	8.10	0.6	糊 後	1,553	1,104	119	26.3	71.1	1994～1996
	ダイハイゲン	1.7	8.8	3.3	糊 後	1,289	931	100	26.2	72.2	
	ワセホマレ	1.5	8.8	1.8	糊 後	1,227	880	94	26.1	71.7	
天 北 農 試	オーロラ82	1.2	8.20	0.0	糊中～後	1,287	909	120	25.0	70.1	1994～1996
	ダイハイゲン	1.5	8.19	4.9	糊中～後	1,061	753	100	24.9	70.7	
	ワセホマレ	1.6	8.18	2.6	糊中～後	1,091	774	103	25.1	70.6	

参照 1) 北海道農政部編, 平成9年普及奨励ならびに指導参考事項, 9-11 (1997).

(7) **ディアHT** (系統名 **ディアHT**) 1997年
 登録番号：(北海道) とうもろこし(飼) 準輸交
 第59号
 (種苗法) 第5853号

セールスポイント

多収で耐倒伏性が強い早生品種である。

来歴：本品種は、アメリカのパイオニア社が育成したデ
 ント種×フリント種の単交配一代雑種である。1992年に
 ホクレン農業協同組合連合会が導入し、1993年より「ディ
 アHT」の系統名で各種の試験を行い、1997年に優良品
 種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「ヘイゲンミノリ」より1～2日早く
 「ディア」並である。収穫時熟度は「ヘイゲンミノリ」
 並かやや遅れ「ディア」並である。総体の乾物率は
 「ヘイゲンミノリ」及び「ディア」並かやや高い。熟

期は早生の晩に属する。

2. 耐倒伏性は「ヘイゲンミノリ」及び「ディア」より
 やや強い。
3. 発芽は「ヘイゲンミノリ」及び「ディア」並である。
 初期生育は「ヘイゲンミノリ」並かやや劣り、「ディ
 ア」並かやや優れる。
4. 乾総重及び推定TDN収量は「ヘイゲンミノリ」よ
 り多く「ディア」よりやや多い。推定乾物中TDN割
 合は「ヘイゲンミノリ」及び「ディア」並かやや低い。
5. 稈長及び着雌穂高は「ヘイゲンミノリ」より高く
 「ディア」並である。
6. すず紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」及び「ディア」
 より強く「ヘイゲンミノリ」よりやや強い。ごま葉枯
 病抵抗性は「ダイヘイゲン」及び「ヘイゲンミノリ」
 より強い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は十勝中部、道央北部及び網走内陸である。
 一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 育 (1良- 5不良)	絹 糸 抽 出 期 (月日)	倒 伏 (%)	収 穫 時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾 物 率 (%)	乾 物 中 T D N (%)	試 験 年 次
						乾 総 重 (kg)	T D N (kg)	同 左 比 (%)			
十 勝 農 試	デ ィ ア H T	1.6	8. 3	0.0	黄 初	1,310	947	104	29.4	72.3	1994～1996
	ヘ イ ゲ ン ミ ノ リ	1.3	8. 4	0.3	黄 初	1,257	912	100	29.0	72.6	
	デ ィ ア	1.7	8. 3	0.0	黄 初	1,282	929	102	28.3	72.4	
上 川 農 試	デ ィ ア H T	1.9	7.25	0.6	黄中～後	1,789	1,251	112	28.9	70.2	1994～1996
	ヘ イ ゲ ン ミ ノ リ	1.9	7.27	1.2	黄 後	1,574	1,117	100	26.9	71.2	
	デ ィ ア	2.1	7.25	1.5	黄中～後	1,657	1,173	105	27.6	70.9	
北 見 農 試	デ ィ ア H T	1.8	8.11	0.4	糊 後	1,437	1,027	109	27.1	71.4	1994～1996
	ヘ イ ゲ ン ミ ノ リ	1.6	8.13	3.3	糊 後	1,310	939	100	28.1	71.7	
	デ ィ ア	2.7	8.13	1.9	糊 後	1,354	965	103	26.4	71.1	

参照 1) 北海道農政部編, 平成9年普及奨励ならびに指導参考事項, 12-14 (1997).

(8) **ノルダ** (系統名 **ノルダ**) 1998年
 登録番号：(北海道) とうもろこし(飼) 準輸交
 第60号

セールスポイント

初期生育が良好な早生品種である。

来歴 本品種は、フランスのパイオニア社が育成したデ
 ント種×(フリント種×デント種)の三系交配一代雑種
 である。1993年にホクレン農業協同組合連合会が導入し、
 1995年より「ノルダ」の系統名で各種の試験を行い、
 1998年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「ダイヘイゲン」並か1～2日遅い。
 収穫時熟度は「ダイヘイゲン」並である。総体の乾物
 率は「ダイヘイゲン」より高い。熟期は早生の中に属
 する。
2. 耐倒伏性は「ダイヘイゲン」並である。
3. 発芽は「ダイヘイゲン」よりやや遅い。初期生育は
 「ダイヘイゲン」よりやや劣る。
4. 乾総重及び推定TDN収量は「ダイヘイゲン」並か
 やや多い。推定乾物中TDN割合は「ダイヘイゲン」
 よりやや低い。
5. 稈長は「ダイヘイゲン」よりやや高い。着雌穂高は

「ダイヘイゲン」より高い。雌穂先端部の子実は露出する。

6. すず紋病抵抗性及びごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」よりやや強い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は十勝、網走ならびに根釧、道北の気象条件の良好な地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 育 (1良-5不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収 穫 時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
十 勝 農 試	ノ ル ダ	1.7	8.3	4.5	黄 初	1,245	891	106	29.4	71.6	1995～1997
	ダイヘイゲン	1.1	8.3	3.5	黄 初	1,162	840	100	27.6	72.3	
北 見 農 試	ノ ル ダ	2.6	8.10	2.0	糊 中	1,358	960	98	25.5	70.7	1995～1997
	ダイヘイゲン	1.7	8.10	1.5	糊 中	1,368	979	100	23.5	71.5	
根 釧 農 試	ノ ル ダ	1.6	8.26	0.0	糊 中	1,139	770	105	24.9	67.6	1995～1997
	ダイヘイゲン	1.4	8.25	1.8	糊初～中	1,070	734	100	22.0	68.6	
天 北 農 試	ノ ル ダ	1.4	8.27	0.0	乳後～糊初	1,017	691	97	22.9	67.5	1995～1997
	ダイヘイゲン	1.0	8.25	0.0	糊 初	1,023	712	100	21.2	69.2	

参照 1) 北海道農政部編, 平成10年普及奨励ならびに指導参考事項, 38-39 (1998).

(9) ピリカ90 (系統名 SL9305) 1998年

登録番号: (北海道) とうもろこし (飼) 準北海道
交第61号

セールスポイント

やや多収で耐倒伏性がやや強い早生品種である。

来歴 本品種は、雪印種苗株式会社育成したテント種×フリント種の単交配一代雑種である。1995年より「SL9305」の系統名で各種の試験を行い、1998年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期及び収穫時熟度は「ヘイゲンミノリ」並である。総体の乾物率は「ヘイゲンミノリ」並かやや

高い。熟期は早生の晩に属する。

2. 耐倒伏性は「ヘイゲンミノリ」よりやや強い。

3. 発芽は「ヘイゲンミノリ」よりやや遅い。初期生育は「ヘイゲンミノリ」並である。

4. 乾総重及び推定TDN収量は「ヘイゲンミノリ」よりやや多い。推定乾物中TDN割合は「ヘイゲンミノリ」よりやや高い。

5. 稈長及び着雌穂高は「ヘイゲンミノリ」より高い。

6. すず紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」より強く、「ヘイゲンミノリ」よりやや強い。ごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」及び「ヘイゲンミノリ」より強い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は十勝中部、道央北部及び網走内陸である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 育 (1良-5不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収 穫 時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
十 勝 農 試	ピ リ カ 90	1.2	8.6	0.3	糊後～黄初	1,358	986	110	27.4	72.6	1995～1997
	ヘイゲンミノリ	1.1	8.6	0.9	糊後～黄初	1,253	893	100	27.0	71.3	
	デ ィ ア	1.7	8.6	0.9	糊後～黄初	1,295	925	104	27.1	71.4	
上 川 農 試	ピ リ カ 90	1.7	7.28	0.0	黄 中	1,739	1,236	105	28.9	71.0	1995～1997
	ヘイゲンミノリ	1.7	7.27	0.5	黄中～後	1,659	1,177	100	27.1	71.1	
	デ ィ ア	2.0	7.25	0.0	黄 中	1,714	1,211	103	27.7	70.7	
北 見 農 試	ピ リ カ 90	1.9	8.14	1.0	糊 後	1,421	1,013	103	23.8	71.3	1995～1997
	ヘイゲンミノリ	1.5	8.14	4.8	糊 中	1,400	986	100	23.5	70.3	
	デ ィ ア	2.8	8.14	16.8	糊 後	1,361	951	96	23.7	69.9	

参照 1) 北海道農政部編, 平成10年普及奨励ならびに指導参考事項, 40-41 (1998).

(10) クラリカ (系統名 3893) 1998年
 登録番号：(北海道) とうもろこし (飼) 準輸交
 第62号

セールスポイント

多収で、ごま葉枯病抵抗性が強い中生品種である。

来歴 本品種は、アメリカのパイオニア社が育成したデント種×デント種の単交配一代雑種である。1994年にホクレン農業協同組合連合会が導入し、1995年より「3893」の系統名で各種の試験を行い、1998年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「キタユタカ」より1日程度、「3790」より2日程度遅い。収穫時熟度は「キタユタカ」よりやや進み、「3790」並である。総体の乾物率は「キタ

ユタカ」より高く、「3790」並である。熟期は中生の中に属する。

2. 耐倒伏性は「キタユタカ」よりやや強く、「3790」並である。
3. 発芽及び初期生育は「キタユタカ」及び「3790」並である。
4. 乾総重及び推定TDN収量は「キタユタカ」より多く、「3790」よりやや多い。推定乾物中TDN割合は「キタユタカ」より高く、「3790」よりやや高い。
5. 稈長及び着雌穂高は「キタユタカ」より高く、「3790」並かやや高い。
6. すず紋病抵抗性は「キタユタカ」よりやや強く、「3790」より弱い。ごま葉枯病抵抗性は「キタユタカ」より強く、「3790」並かやや強い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 育 生 (1良- 5不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収 穫 時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北 海 道 農 試	ク ラ リ カ	1.3	8. 5	0.0	黄初～中	1,738	1,278	114	30.2	73.6	1995,1997
	キ タ ユ タ カ	1.1	8. 6	0.3	黄初～中	1,537	1,117	100	26.7	72.7	
	3 7 9 0	1.5	8. 7	0.0	黄 中	1,708	1,241	111	30.4	72.7	
滝 川 畜 試	ク ラ リ カ	1.5	8. 9	1.6	黄初～中	1,781	1,279	109	26.7	71.9	1995～1997
	キ タ ユ タ カ	1.6	8.10	2.4	糊後～黄初	1,664	1,178	100	24.8	70.8	
	3 7 9 0	1.8	8.11	0.2	黄初～中	1,728	1,235	105	27.8	71.5	
上 川 農 試	ク ラ リ カ	2.1	7.30	0.5	黄中～後	1,926	1,391	116	29.3	72.3	1995～1997
	キ タ ユ タ カ	1.9	7.30	4.3	黄 中	1,693	1,202	100	26.3	71.0	
	3 7 9 0	1.9	7.31	0.0	黄 中	1,856	1,331	111	29.6	71.8	

参照 1) 北海道農政部編, 平成10年普及奨励ならびに指導参考事項, 36-37 (1998).

(11) KD354 (系統名 KD354) 1999年
 登録番号：(北海道) とうもろこし (飼) 準輸交
 第63号

セールスポイント

やや多収な早生品種である。

来歴 本品種は、ドイツのクラインワンツレーベン育種株式会社が育成したデント種×フリント種の単交配一代雑種である。1994年にカネコ種苗株式会社が導入し、1995年より「KD354」の系統名で各種の試験を行い、1999年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「ヘイゲンミノリ」より2～3日早く、「ディア」並である。収穫時熟度は「ヘイゲンミノリ」及び「ディア」よりやや進む。総体の乾物率は「ヘイゲンミノリ」並かやや高く、「ディア」並である。熟期は早生の晩に属する。
2. 耐倒伏性は「ヘイゲンミノリ」並である。
3. 発芽は「ヘイゲンミノリ」よりやや遅い。初期生育は「ヘイゲンミノリ」並である。
4. 乾総重及び推定TDN収量は「ヘイゲンミノリ」よりやや多い。推定乾物中TDN割合は「ヘイゲンミノリ」よりやや高い。
5. 稈長及び着雌穂高は「ヘイゲンミノリ」よりやや高い。

6. すず紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」より強く、「ヘイゲンミノリ」よりやや強い。ごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」よりやや強く、「ヘイゲンミノリ」並である。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は十勝中部，網走内陸及び道央北部である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 育 (1良- 5不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収 穫 時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
十 勝 農 試	K D 3 5 4	1.4	8.5	33.6	黄 初	1,241	896	108	25.9	72.2	1996～1998
	ヘイゲンミノリ	1.1	8.8	34.1	糊後～黄初	1,170	828	100	24.6	70.8	
	デ ィ ア	1.6	8.6	31.6	糊後～黄初	1,272	908	110	26.0	71.4	
北 見 農 試	K D 3 5 4	1.4	8.14	17.6	糊後～黄初	1,446	1,015	100	23.5	70.2	1996～1998
	ヘイゲンミノリ	1.4	8.14	14.1	糊 中	1,444	1,017	100	23.5	70.4	
上 川 農 試	K D 3 5 4	1.2	7.24	0.0	黄中～後	1,736	1,259	103	30.4	72.1	1996～1998
	ヘイゲンミノリ	1.0	7.27	0.2	黄 中	1,703	1,222	100	29.1	71.8	
	デ ィ ア	1.7	7.24	0.0	黄 中	1,742	1,244	102	30.5	71.4	

参照 1) 北海道農政部編，平成11年普及奨励ならびに指導参考事項，29-30 (1999)。

(12) ロイヤルデント85H (系統名 TH9434) 1999年
登録番号：(北海道)とうもろこし(飼)準輸交
第64号

セールスポイント

やや多収な早生品種である。

来歴 本品種は，ドイツのクラインワンツレーベン育種株式会社が育成したデント種×フリント種の三系交配一代雑種である。1994年にタキイ種苗株式会社が導入し，1995年より「TH9434」の系統名で各種の試験を行い，1999年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「ヘイゲンミノリ」より2日程度早く，「ディア」並である。収穫時熟度は「ヘイゲンミノリ」及び「ディア」よりやや進む。総体の乾物率は「ヘイ

ゲンミノリ」並で，「ディア」よりやや低い。熟期は早生の晩に属する。

2. 耐倒伏性は「ヘイゲンミノリ」並である。

3. 発芽は「ヘイゲンミノリ」よりやや遅く，初期生育は「ヘイゲンミノリ」よりやや劣る。

4. 乾総重及び推定TDN収量は「ヘイゲンミノリ」よりやや多い。推定乾物中TDN割合は「ヘイゲンミノリ」並である。

5. 稈長は「ヘイゲンミノリ」並で，着雌穂高は「ヘイゲンミノリ」より高い。

6. すず紋病抵抗性及びごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」より強く，「ヘイゲンミノリ」よりやや強い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は十勝中部，網走内陸及び道央北部である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 育 (1良- 5不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収 穫 時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
十 勝 農 試	ロイヤルデント85H	1.6	8.6	33.8	黄 初	1,192	859	104	24.1	72.1	1996～1998
	ヘイゲンミノリ	1.1	8.8	34.1	糊後～黄初	1,170	828	100	24.6	70.8	
	デ ィ ア	1.6	8.6	31.6	糊後～黄初	1,227	908	110	26.0	71.4	
北 見 農 試	ロイヤルデント85H	2.4	8.14	22.5	糊後～黄初	1,485	1,043	103	23.3	70.3	1996～1998
	ヘイゲンミノリ	1.4	8.14	14.1	糊 中	1,444	1,017	100	23.5	70.4	
上 川 農 試	ロイヤルデント85H	1.6	7.25	0.0	黄中～後	1,726	1,236	101	28.6	71.6	1996～1998
	ヘイゲンミノリ	1.0	7.27	0.2	黄 中	1,703	1,222	100	29.1	71.8	
	デ ィ ア	1.7	7.24	0.0	黄 中	1,742	1,244	102	30.5	71.4	

参照 1) 北海道農政部編，平成11年普及奨励ならびに指導参考事項，30-31 (1999)。

(13) ノベタ (系統名 ノベタ) 2000年
登録番号：(北海道) とうもろこし (飼) 準輸交
第65号

セールスポイント

やや多収な早生品種である。

来歴 本品種は、フランスのパイオニア社が育成したフリントデント種×フリント種の単交配一代雑種である。1994年にホクレン農業協同組合連合会が導入し、1995年より「ノベタ」の系統名で各種の試験を行い、2000年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「ヘイゲンミノリ」より2～3日早く、「ディア」より1日早い。収穫時熟度は「ヘイゲンミノリ」及び「ディア」並である。総体の乾物率は「ヘ

イゲンミノリ」より高く、「ディア」並かやや高い。熟期は早生の晩に属する。

2. 耐倒伏性は「ヘイゲンミノリ」並である。
3. 発芽は「ヘイゲンミノリ」より遅く、初期生育は「ヘイゲンミノリ」よりやや劣る。
4. 乾総重及び推定TDN収量は「ヘイゲンミノリ」よりやや多い。推定乾物中TDN割合は「ヘイゲンミノリ」より高い。
5. 稈長及び着雌穂高は「ヘイゲンミノリ」より高く、「ディア」並である。
6. すず紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」及び「ヘイゲンミノリ」よりやや強い。ごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」よりやや強く、「ヘイゲンミノリ」並である。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は十勝中部、道央北部及び網走内陸である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 育 (1良- 5不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収 穫 時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (kg)	同左比 (%)			
十 勝 農 試	ノ ベ タ	1.4	8.5	36.3	糊後～黄初	1,254	913	110	26.2	72.8	1996～1998
	ヘイゲンミノリ	1.1	8.8	34.1	糊後～黄初	1,170	828	100	24.6	70.8	
	デ ィ ア	1.6	8.6	31.6	糊後～黄初	1,227	908	110	26.0	71.4	
北 見 農 試	ノ ベ タ	1.8	8.6	14.9	黄 初	1,460	1,061	100	28.6	72.7	1997～1999
	ヘイゲンミノリ	1.7	8.9	14.1	糊 後	1,486	1,058	100	26.4	71.2	
上 川 農 試	ノ ベ タ	1.5	7.24	0.0	黄 中	1,791	1,304	105	32.0	72.8	1997～1999
	ヘイゲンミノリ	1.1	7.25	0.0	黄 中	1,709	1,240	100	31.0	72.1	
	デ ィ ア	1.8	7.24	0.0	黄 中	1,792	1,277	103	31.0	71.2	

参照 1) 北海道農政部編, 平成12年普及奨励ならびに指導参考事項, 49-51 (2000).

(14) ロイヤルデントアポロ90(系統名 TH9597)2000年
登録番号：(北海道) とうもろこし (飼) 準輸交
第66号

セールスポイント

耐倒伏性が強い早生品種である。

来歴：本品種は、フランスのフランス・カナダセメンシス社が育成したフリント種×デント種の単交配一代雑種である。1995年にタキイ種苗株式会社が導入し、1996年より「TH9597」の系統名で各種の試験を行い、2000年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「ディア」より1日遅い。収穫時熟度

は「ディア」並である。総体の乾物率は「ディア」よりやや高い。熟期は早生の晩に属する。

2. 耐倒伏性は「ディア」並かやや強い。
3. 発芽は「ディア」並で、初期生育は「ディア」よりやや劣る。
4. 乾総重及び推定TDN収量は「ディア」並である。乾雌穂重割合は「ディア」よりやや高く、推定乾物中TDN割合は「ディア」並かやや高い。
5. 稈長は「ディア」並で、着雌穂高は「ディア」より低い。
6. すず紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」より強く、「ディア」よりやや強い。ごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」よりやや強く、「ディア」並である。

栽培適地と奨励態度

一般栽培に準じて栽培できる。

栽培適地は十勝中部，道央北部及び網走内陸である。

試験場名	品 種 名	初 期 育 (9極良- 1極不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収 穫 時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
十 勝 農 試	ア ポ ロ 90	6.6	8. 4	28.6	黄 初	1,313	954	99	27.6	72.6	1997～1999
	デ ィ ア	6.8	8. 2	31.6	黄 初	1,341	964	100	27.2	71.9	
北 見 農 試	ア ポ ロ 90	5.2	8. 7	15.4	黄 初	1,557	1,126	103	29.7	72.3	1997～1999
	デ ィ ア	6.0	8. 8	27.1	黄 初	1,543	1,098	100	27.7	71.1	
上 川 農 試	ア ポ ロ 90	6.7	7.25	0.0	黄 中	1,807	1,305	102	32.8	72.2	1997～1999
	デ ィ ア	7.3	7.24	0.0	黄 中	1,792	1,277	100	31.0	71.2	

参照 1) 北海道農政部編，平成12年普及奨励ならびに指導参考事項，52-54 (2000).

(15) DK483 (系統名 SH6547) 2000年

登録番号：(北海道) とうもろこし (飼) 準輸交
第67号

セールスポイント

多収で，耐倒伏性がやや強い晩生品種である。

来歴 本品種は，アメリカのデカルブ・プラント・ジェネティクス社が育成したデント種×デント種の単交配一代雑種である。1995年に雪印種苗株式会社が導入し，1997年より「SH6547」の系統名で各種の試験を行い，2000年に優良品種となった。

2. 耐倒伏性は「P3732」並かやや強い。
3. 発芽は「P3732」よりやや早く，初期生育は「P3732」より優れる。
4. 乾総重及び推定TDN収量は「P3732」より多い。乾雌穂重割合は「P3732」と同程度である。開花期前後の多雨・寡照・高温条件により，有効雌穂割合が低下することがある。その程度は「P3732」並である。
5. 稈長は「P3732」より短く，着雌穂高は「P3732」並かやや低い。
6. すず紋病抵抗性は「3540」より強く，「P3732」より弱い。ごま葉枯病抵抗性は「3540」及び「P3732」と同程度である。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「P3732」とほぼ同じである。収穫時熟度及び総体の乾物率は「P3732」と同程度である。熟期は晩生の早に属する。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央（北部を除く）及び道南である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 育 (9極良- 1極不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収 穫 時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北 海 道 農 試	D K 4 8 3	7.0	8. 7	25.5	黄初～中	1,776	1,269	111	26.8	71.2	1997～1999
	P 3 7 3 2	5.8	8. 8	31.5	黄 中	1,636	1,146	100	26.4	69.3	
滝 川 畜 試	D K 4 8 3	8.0	8.16	11.4	黄 初	1,797	1,279	100	23.3	71.1	1997～1999
	P 3 7 3 2	6.2	8.16	18.1	黄 中	1,765	1,280	100	25.7	72.5	
道 南 農 試	D K 4 8 3	7.5	8. 7	33.5	黄 中	1,800	1,291	117	32.6	71.8	1997～1999
	P 3 7 3 2	6.3	8. 7	34.0	黄 中	1,558	1,107	100	29.6	71.1	

注) 滝川畜試の1999年は適期播種ができなかったため，倒伏のみ1997～1999年の平均とし，その他の形質は1997～1998年の平均とした。

参照 1) 北海道農政部編，平成12年普及奨励ならびに指導参考事項，55-57 (2000).

(16) **DK566** (系統名 DK566) 2000年
登録番号：(北海道)とうもろこし(飼)準輸交
第68号

セールスポイント

耐倒伏性およびごま葉枯病抵抗性が強い晩生品種である。

来歴 本品種は、アメリカのデカルブ・プラント・ジェネティクス社が育成したデント種×デント種の単交配一代雑種である。1995年にカネコ種苗株式会社が導入し、1997年より「DK566」の系統名で各種の試験を行い、2000年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「3540」より約1日早い。収穫時熟度

は「3540」並かやや遅れる。総体の乾物率は「3540」並かやや高い。熟期は晩生の中に属する。
2. 耐倒伏性は「3540」並である。
3. 発芽は「3540」並で、初期生育は「3540」並かやや劣る。
4. 乾総重は「3540」並かやや少なく、推定TDN収量は「3540」並である。乾雌穂重割合は「3540」より高い。
5. 稈長及び着雌穂高は「3540」並である。
6. すず紋病抵抗性は「3540」より強く、「P3732」と同程度である。ごま葉枯病抵抗性は「3540」及び「P3732」より強い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央(北部を除く)及び道南である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 育 (9極良- 1極不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北 海 道 農 試	D K 5 6 6	5.4	8.12	29.6	糊後～黄初	1,866	1,347	99	25.6	72.2	1997～1999
	3 5 4 0	6.5	8.13	30.1	黄初～中	1,928	1,360	100	26.3	70.5	
滝 川 畜 試	D K 5 6 6	8.9	8.19	27.2	黄初～中	1,925	1,391	97	23.6	77.2	1997～1999
	3 5 4 0	7.3	8.19	17.0	黄 中	2,032	1,441	100	23.6	70.8	
道 南 農 試	D K 5 6 6	6.5	8.9	34.4	黄 中	1,826	1,315	103	30.2	72.1	1997～1999
	3 5 4 0	7.8	8.11	33.3	黄 中	1,810	1,272	100	30.0	70.3	

注) 滝川畜試の1999年は適期播種ができなかったため、倒伏のみ1997～1999年の平均とし、その他の形質は1997～1998年の平均とした。

参照 1) 北海道農政部編, 平成12年普及奨励ならびに指導参考事項, 58-60 (2000).

(17) **モノポル85** (系統名 TH9623) 2001年
登録番号：(北海道)とうもろこし(飼)準輸交
第69号

セールスポイント

多収で、耐倒伏性が強く、すず紋病抵抗性がやや強い早生品種である。

来歴 本品種はドイツのクラインワンツレーベン社が育成したデント種×フリント種の単交配一代雑種である。1996年にタキイ種苗株式会社が導入し、1998年より「TH9623」の系統名で各種の試験を行い、2001年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「ディア」より約1～2日早く、収穫

時熟度は「ディア」よりやや進む。総体の乾物率は「ディア」並である。熟期は早生の晩である。
2. 初期生育は「ディア」より優れ、稈長は「ディア」よりやや高く、着雌穂高は「ディア」並である。耐倒伏性は「ディア」並である。
3. すず紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」及び「ディア」よりやや強く、ごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」よりやや弱く、「ディアHT」より弱い。
4. 乾総重、推定TDN収量は「ディア」より多く、乾雌穂重割合は「ディア」よりやや高い。推定乾物中TDN割合は「ディア」並である。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は十勝中部、網走内陸及び道央北部地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 育 (9極良- 1極不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収 穫 時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北 見 農 試	モ ノ ボ ル 85	7.3	8. 4	4.7	黄 初	1,583	1,155	105	29.2	72.9	1998～2000
	デ ィ ア	5.5	8. 5	11.6	黄 初	1,526	1,105	100	29.8	72.4	
十 勝 農 試	モ ノ ボ ル 85	7.1	7.30	33.3	黄初～中	1,467	1,074	109	25.6	73.2	1998～2000
	デ ィ ア	5.7	7.31	30.8	黄 初	1,348	989	100	26.2	73.3	
上 川 農 試	モ ノ ボ ル 85	8.5	7.21	1.1	黄中～後	1,853	1,338	110	31.3	72.2	1998～2000
	デ ィ ア	6.6	7.23	0.2	黄 中	1,718	1,221	100	30.9	71.1	

参照 1)北海道農政部編, 平成13年普及奨励ならびに指導参考事項, 40-42 (2001).

(18) 35G86 (系統名 X1045T) 2001年

登録番号: (北海道) とうもろこし (飼) 準輸交
第70号

セールスポイント

多収で, 耐倒伏性がやや強く, ごま葉枯病抵抗性が強い晩生品種である。

来歴 本品種は, アメリカのパイオニア社が育成したデント種×デント種の単交配一代雑種である。1996年にホクレン農業協同組合連合会が導入し, 1998年より「X1045T」の系統名で各種の試験を行い, 2001年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「P3732」より約1日遅く, 収穫時熟度及び総体の乾物率はほぼ「P3732」並である。熟期は晩生の早である。
2. 初期生育は「P3732」より優れ, 稈長および着雌穂高は「P3732」より高い。耐倒伏性はほぼ「P3732」並である。
3. すず紋病抵抗性及びごま葉枯病抵抗性は「3540」より強く, 「P3732」並である。
4. 乾総重, 推定TDN収量は「P3732」より多く, 乾雌穂重割合は「P3732」よりやや低い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央(北部を除く)及び道南地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 育 (9極良- 1極不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収 穫 時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北 海 道 農 試	3 5 G 8 6	5.6	8. 7	31.1	黄 初	2,013	1,447	124	30.0	71.9	1998～2000
	P 3 7 3 2	4.5	8. 6	31.5	黄初～中	1,665	1,171	100	27.0	69.6	
畜 試 滝川試験地	3 5 G 8 6	7.7	8.11	33.0	黄 中	2,078	1,503	106	27.3	72.4	1998～2000
	P 3 7 3 2	6.1	8.10	17.7	黄 中	1,925	1,418	100	27.4	73.7	
道 南 農 試	3 5 G 8 6	7.8	8. 5	63.1	黄 中	1,788	1,287	115	30.9	72.0	1998～2000
	P 3 7 3 2	6.3	8. 4	65.2	黄 中	1,562	1,122	100	29.6	71.9	

注) 畜試滝川試験地は倒伏のみ1998年～2000年の3か年平均値, その他の形質は1999年を除く2か年平均値。

参照 1)北海道農政部編, 平成13年普及奨励ならびに指導参考事項, 43-45 (2001).

(19) カリメラ (系統名 カリメラ) 2002年

登録番号: (北海道) とうもろこし (飼) 準輸交
第72号

セールスポイント

多収で耐倒伏性が強い早生品種である。

来歴 本品種は, アメリカのパイオニア社が育成したデ

ント種×フリント種の単交配一代雑種である。1997年にホクレン農業協同組合連合会が導入し, 1999年より「カリメラ」の系統名で各種の試験を行い, 2002年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「ディアHT」より1日遅く, 収穫時

熟度及び総体の乾物率は「ディアHT」並である。熟期は早生の晩である。

- 初期生育は「ディアHT」よりやや劣り、稈長及び着雌穂高は「ディアHT」より高い。耐倒伏性は「ディアHT」並である。
- すす紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」よりやや強く、「ディアHT」よりやや弱い。ごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」より強く、「ディアHT」よりやや強

い。

- 乾総重、推定TDN収量は「ディアHT」より多く、乾雌穂重割合及び推定乾物中TDN割合は「ディアHT」並である。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は十勝中部及び網走内陸地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 生育 (9極良-1極不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北 見 農 試	カ リ メ ラ	5.1	8. 4	7.8	黄 後	1,734	1,267	113	30.1	73.1	1999～2001
	デ ィ ア H T	5.4	8. 3	0.0	黄 中	1,550	1,125	100	29.1	72.6	
十 勝 農 試	カ リ メ ラ	4.5	7.29	0.6	黄 中	1,570	1,155	111	27.9	73.6	1999～2001
	デ ィ ア H T	5.1	7.29	0.0	黄初～中	1,426	1,045	100	26.9	73.3	
上 川 農 試	カ リ メ ラ	6.5	7.23	0.9	黄 中	1,790	1,242	102	29.6	69.3	1999～2001
	デ ィ ア H T	7.2	7.23	0.5	黄 中	1,737	1,218	100	29.5	70.1	

参照 1)北海道農政部編, 平成14年普及奨励ならびに指導参考事項, 29-30 (2002).

20 ジェレミス (系統名 JEREMIS) 2002年

登録番号: (北海道) とうもろこし (飼) 準輸交
第73号

セールスポイント

多収で、耐倒伏性が強く、すす紋病抵抗性がやや強い中生品種である。

来歴 本品種は、フランスのポー・セマース社が育成したデント種×フリント種の単交配一代雑種である。1997年に株式会社ゲン・コーポレーションが導入し、1999年より「JEREMIS」の系統名で各種の試験を行い、2002年に優良品種となった。

特性概要

- 絹糸抽出期は「DK300」より2日早く、収穫時熟

度は「DK300」並である。総体の乾物率は「DK300」よりやや低い。熟期は中生の早である。

- 初期生育は「DK300」より優れ、稈長及び着雌穂高は「DK300」より高い。耐倒伏性は「DK300」並である。
- すす紋病抵抗性は「キタユタカ」より強く、「DK300」よりやや強い。ごま葉枯病抵抗性は「キタユタカ」及び「DK300」並である。
- 乾総重、推定TDN収量は「DK300」より多く、乾雌穂重割合は「DK300」より高い。推定乾物中TDN割合は「DK300」よりやや高い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央北部、十勝中部及び網走内陸の気象条件の良好な地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 生育 (9極良-1極不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北 見 農 試	ジ ャ レ ミ ス	6.2	8. 4	0.6	黄 中	1,638	1,202	109	27.9	73.5	1999～2001
	D K 3 0 0 0	5.0	8. 6	6.7	黄 中	1,518	1,102	100	28.1	72.6	
十 勝 農 試	ジ ャ レ ミ ス	5.9	7.31	0.3	黄初～中	1,611	1,182	110	26.3	73.4	1999～2001
	D K 3 0 0 0	4.9	8. 2	0.0	黄 初	1,472	1,079	100	26.8	73.3	
上 川 農 試	ジ ャ レ ミ ス	8.0	7.24	1.9	黄中～後	1,917	1,419	105	34.8	74.2	1999～2001
	D K 3 0 0 0	6.4	7.27	0.5	黄 中	1,837	1,347	100	34.5	73.2	

参照 1) 北海道農政部編, 平成14年普及奨励ならびに指導参考事項, 31-32 (2002).

(21) **36A43** (系統名 36A43) 2002年
 登録番号：(北海道) とうもろこし (飼) 準輸交
 第71号

セールスポイント

やや多収で、すす紋病抵抗性がやや強く、ごま葉枯病抵抗性が強い晩生品種である。

来歴 本品種は、アメリカのパイオニア社が育成したデント種×デント種の単交配一代雑種である。1997年にホクレン農業協同組合連合会が導入し、1999年より「36A43」の系統名で各種の試験を行い、2002年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「3845」より1～2日遅く、収穫時熟

度は「3845」よりやや遅れる。総体の乾物率は「3845」並かやや低い。熟期は中生の晩である。

- 初期生育は「3845」よりやや劣る。稈長は「3845」並で着雌穂高は「3845」より高い。耐倒伏性は「3845」よりやや強い。
- すす紋病抵抗性は「キタユタカ」より強く「3845」並かやや弱い。ごま葉枯病抵抗性は「キタユタカ」より強く「3845」よりやや強い。
- 乾総重、推定TDN収量は「3845」よりやや多い。乾雌穂重割合は「3845」よりやや低い。開花期前後の多雨・少日照条件により有効雌穂割合が低下することがある。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央（北部を除く）及び道南地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 育 生 (9極良- 1極不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収 穫 時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (kg)	同左比 (%)			
北 農 研 セ ン タ ー	3 6 A 4 3	6.3	8. 6	2.5	黄 中	1,971	1,427	110	30.9	72.4	1999～2001
	3 8 4 5	7.5	8. 3	19.5	黄初～中	1,788	1,302	100	30.1	72.8	
上 川 農 試	3 6 A 4 3	6.6	8. 1	14.4	黄初～中	2,086	1,487	100	31.3	71.4	1999～2001
	3 8 4 5	7.5	7.30	14.8	黄中～後	2,034	1,483	100	33.9	72.9	
畜 試 滝川試験地	3 6 A 4 3	5.5	8. 9	24.0	黄後	1,821	1,317	107	28.1	72.2	1999～2001
	3 8 4 5	6.5	8. 7	49.0	黄後	1,681	1,229	100	29.5	73.0	

注)畜試滝川試験地は倒伏のみ1999年～2001年の3か年平均値、その他の形質は1999年を除く2か年平均値。

参照 1)北海道農政部編, 平成14年普及奨励ならびに指導参考事項, 33-34 (2002).

(22) **おおぞら** (系統名 北交55号) 2002年
 登録番号：(北海道) とうもろこし (飼) 北海道交
 第71号
 (農水省) とうもろこし農林交56号
 (種苗法) 第 号

セールスポイント

やや多収で、耐倒伏性が強く、ごま葉枯病抵抗性がやや強い中生品種である。

来歴 本品種は、独立行政法人北海道農業研究センターが、耐倒伏性が強く、初期生育に優れ登熟の早い安定・多収な中生品種の育成を目標に、「Ho57」を種子親、「Ho49」を花粉親として育成したデント種×フリント種の単交配一代雑種である。1998年に「月交580」、1999年より「北交55号」の系統名で各種の試験を行い、2002年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「3790」より1日遅く「3845」並で、

総体の乾物率は「3790」並である。熟期は中生の中である。

- 初期生育は「3790」より優れ「3845」並である。稈長は「3790」より高く、「3845」よりやや高い。着雌穂高は「3790」及び「3845」より高い。耐倒伏性は「3790」及び「3845」より強い。
- すす紋病抵抗性は「キタユタカ」よりやや強く「3790」及び「3845」より弱い。ごま葉枯病抵抗性は「キタユタカ」より強く「3845」並で、「3790」より弱い。
- 乾総重、推定TDN収量は「3790」及び「3845」よりやや多い。乾雌穂重割合は「3790」及び「3845」よりやや低い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央（北部を除く）及び道南地域である。一般栽培に準じて栽培できる。密植適性は比較的高いが、栽植密度は6,800～8,000本/10 a程度とする。

試験場名	品 種 名	初 生 期 育 (9極良-1極不良)	絹 糸 抽 出 期 (月日)	倒 伏 (%)	収 穫 時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾 物 率 (%)	試 験 年 次
						乾 総 重 (kg)	T D N (kg)	同 左 比 (%)		
北 農 研 セ ン タ ー	お お ぞ ら	8.4	8.4	9.0	黄 中	1,863	1,344	106	29.6	1997～2001
	3 7 9 0	6.9	8.5	32.3	黄 中	1,765	1,273	100	29.7	
	3 8 4 5	7.5	8.5	37.9	黄初～中	1,809	1,318	104	30.0	
上 川 農 試	お お ぞ ら	7.2	7.31	3.0	黄中～後	2,052	1,458	100	34.5	1998～2001
	3 7 9 0	7.4	7.28	10.4	黄中～後	1,995	1,455	100	34.0	
	3 8 4 5	7.7	7.29	10.7	黄中～後	2,028	1,479	102	33.6	
畜 試 滝 川 試 験 地	お お ぞ ら	6.7	8.8	12.7	黄 後	1,712	1,238	102	30.3	2000～2001
	3 7 9 0	4.5	8.7	24.7	黄中～後	1,676	1,215	100	29.7	
	3 8 4 5	6.5	8.8	57.3	黄中～後	1,680	1,228	101	29.4	

参照 1)北海道農政部編, 平成14年普及奨励ならびに指導参考事項, 35-36 (2002).

2)濃沼圭一 等, 北海道農研研報, 180, 1-17(2004).

23) ビスカ (系統名 X0826X) 2003年

登録番号: (北海道) とうもろこし (飼) 準輸交
第74号

セールスポイント

やや多収で, 耐倒伏性及びすす紋病抵抗性がやや強い
早生品種である。

来歴 本品種は, アメリカのパイオニア社が育成したデ
ント種×フリント種の単交配一代雑種である。1998年に
ホクレン農業協同組合連合会が導入し, 1999年より
「X0826X」の系統名で各種の試験を行い, 2003年に優
良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「オーロラ82」より4日遅く, 収穫時

熟度は「オーロラ82」よりやや遅れる。総体の乾物率
は「オーロラ82」よりやや高い。熟期は早生の中であ
る。

2. 初期生育は「オーロラ82」並で, 稈長および着雌穂
高は「オーロラ82」より高い。耐倒伏性は「オーロラ
82」並である。

3. すず紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」および「オーロ
ラ82」より強い。ごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲ
ン」よりやや強く「オーロラ82」よりやや弱い。

4. 乾総重, 推定TDN収量は「オーロラ82」よりやや
多く, 乾雌穂重割合及び推定乾物中TDN割合は「オー
ロラ82」並である。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央北部, 十勝及び網走地域である。一般
栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 生 期 育 (9極良-1極不良)	絹 糸 抽 出 期 (月日)	倒 伏 (%)	収 穫 時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾 物 率 (%)	乾 物 中 T D N (%)	試 験 年 次
						乾 総 重 (kg)	T D N (kg)	同 左 比 (%)			
北 見 農 試	ビ ス カ	6.3	8.10	5.0	黄 中	1,651	1,177	103	24.5	71.3	2000～2002
	オ ー ロ ラ 82	5.9	8.8	0.0	黄 中	1,589	1,139	100	22.6	71.6	
十 勝 農 試	ビ ス カ	5.7	8.2	0.2	黄 初	1,622	1,179	107	27.7	72.7	2000～2002
	オ ー ロ ラ 82	5.7	7.29	2.0	黄初～中	1,512	1,102	100	25.7	72.9	
上 川 農 試	ビ ス カ	7.2	7.26	0.5	黄初～中	1,936	1,398	109	29.8	72.2	2000～2002
	オ ー ロ ラ 82	7.5	7.23	0.0	黄中～後	1,778	1,283	100	28.0	72.2	

参照 1)北海道農政部編, 平成15年普及奨励ならびに指導参考事項, 25-26 (2003).

⑭ リッチモンド (系統名 HE9815) 2003年
登録番号：(北海道) とうもろこし (飼) 準輸交
第75号

セールスポイント

やや多収で、耐倒伏性がやや強く、ごま葉枯病抵抗性が強い早生品種である。

来歴 本品種は、フランスのリマグレイン社が育成したデント種×フリント種の単交配一代雑種である。1998年に雪印種苗株式会社が導入し、2000年より「HE9815」の系統名で各種の試験を行い、2003年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「オーロラ82」より1日遅く、収穫時

熟度は「オーロラ82」並である。総体の乾物率は「オーロラ82」より高い。熟期は早生の中である。

2. 初期生育は「オーロラ82」並である。稈長は「オーロラ82」並で、着雌穂高は「オーロラ82」よりやや低い。耐倒伏性は「オーロラ82」並である。
3. すず紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」よりやや強く「オーロラ82」並である。ごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」及び「オーロラ82」より強い。
4. 乾総重、推定TDN収量は「オーロラ82」よりやや多く、乾雌穂重割合は「オーロラ82」並かやや低い。推定乾物中TDN割合は「オーロラ82」並である。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央北部、十勝及び網走地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 育 (9極良- 1極不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北 見 農 試	リッチモンド	5.7	8.9	0.0	黄 中	1,635	1,158	100	26.0	70.8	2000～2002
	オーロラ82	5.9	8.7	0.0	黄 中	1,610	1,155	100	22.4	71.6	
十 勝 農 試	リッチモンド	5.8	7.28	0.3	黄 中	1,637	1,202	109	30.1	73.4	2000～2002
	オーロラ82	5.7	7.29	2.0	黄初～中	1,512	1,102	100	25.7	72.9	
上 川 農 試	リッチモンド	7.2	7.23	0.0	黄 中	1,987	1,436	112	31.9	72.3	2000～2002
	オーロラ82	7.5	7.23	0.0	黄中～後	1,778	1,283	100	28.0	72.2	

参照 1)北海道農政部編, 平成15年普及奨励ならびに指導参考事項, 27-28 (2003).

⑮ SL9851 (系統名 SL9851) 2003年
登録番号：(北海道) とうもろこし (飼) 準北海
道交第76号

セールスポイント

やや多収で、耐倒伏性及びごま葉枯病抵抗性がやや強い早生品種である。

来歴 本品種は、雪印種苗株式会社が育成したデント種×フリント種の単交配一代雑種である。2000年より「SL9851」の系統名で各種の試験を行い、2003年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「ディアHT」より3日遅いが、低温条件ではやや遅れることがある。収穫時熟度及び総体

の乾物率は「ディアHT」並である。熟期は早生の晩である。

2. 初期生育は「ディアHT」よりやや劣る。稈長は「ディアHT」よりやや高く、着雌穂高は「ディアHT」並である。耐倒伏性は「ディアHT」並である。
3. すず紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」より強く「ディアHT」並である。ごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」及び「ディアHT」より強い。
4. 乾総重、推定TDN収量は「ディアHT」よりやや多く、乾雌穂重割合及び推定乾物中TDN割合は「ディアHT」並かやや低い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は十勝中部及び網走内陸の気象条件の良好な地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 育 (9極良- 1極不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収 穫 時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北 見 農 試	S L 9 8 5 1	5.1	8.11	1.7	黄 初	1,522	1,070	101	24.4	70.3	2000～2002
	デ ィ ア H T	5.4	8.7	0.0	黄 中	1,482	1,057	100	25.9	71.3	
十 勝 農 試	S L 9 8 5 1	4.2	8.2	0.7	黄初～中	1,561	1,125	107	26.6	72.0	2000～2002
	デ ィ ア H T	5.0	7.30	0.0	黄 初	1,447	1,052	100	25.8	72.7	
上 川 農 試	S L 9 8 5 1	5.8	7.26	1.4	黄 中	1,817	1,316	109	28.2	72.4	2000～2002
	デ ィ ア H T	6.6	7.24	1.4	黄初～中	1,708	1,203	100	27.7	70.3	

参照 1)北海道農政部編, 平成15年普及奨励ならびに指導参考事項, 29-30 (2003).

(26) TH9861 (系統名 TH9861) 2003年
登録番号:(北海道)とうもろこし(飼)準輸交
第77号

セールスポイント

多収で, 耐倒伏性がやや強く, 病害抵抗性が強い中生品種である。

来歴 本品種は, フランスカナダ・セメンセス社が育成したフロント種×デント種の単交配一代雑種である。1998年にタキイ種苗株式会社が導入し, 2000年より「TH9861」の系統名で各種の試験を行い, 2003年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「ロイヤルデント90H」より約2日遅

く, 収穫時熟度及び総体の乾物率は「ロイヤルデント90H」並である。熟期は中生の早である。

- 初期生育は「ロイヤルデント90H」並で, 稈長及び着雌穂高は「ロイヤルデント90H」より高い。耐倒伏性は「ロイヤルデント90H」よりやや強い。
- すず紋病抵抗性は「ロイヤルデント90H」及び「キタユタカ」より強い。ごま葉枯病抵抗性は「ロイヤルデント90H」よりやや強く, 「キタユタカ」より強い。
- 乾総重及び推定TDN収量は「ロイヤルデント90H」より多く, 乾雌穂重割合は「ロイヤルデント90H」並である。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は十勝中部の気象条件の良好な地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 育 (9極良- 1極不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収 穫 時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
十 勝 農 試	T H 9 8 6 1	5.4	8.1	0.5	糊後～黄初	1,572	1,158	108	24.4	73.7	2000～2002
	ロイヤルデント90H	5.9	7.28	1.3	黄 初	1,460	1,069	100	25.6	73.2	
畜 試 滝川試験地	T H 9 8 6 1	6.3	8.5	1.7	黄 中	1,530	1,120	110	30.2	73.1	2000～2002
	ロイヤルデント90H	6.0	8.4	2.3	黄 中	1,401	1,020	100	26.8	72.8	
北 農 研 センター	T H 9 8 6 1	7.8	7.29	0.0	黄初～中	1,617	1,179	111	27.2	72.0	2000～2002
	ロイヤルデント90H	8.0	7.27	0.0	黄初～中	1,459	1,063	100	27.1	72.9	

参照 1)北海道農政部編, 平成15年普及奨励ならびに指導参考事項, 31-32 (2003).

(27) チベリウス (系統名 HK9851) 2004年
登録番号:(北海道)とうもろこし(飼)輸交
第26号

セールスポイント

多収で, 耐倒伏性及びごま葉枯病抵抗性がやや強い早生品種である。

来歴 本品種は, ドイツのクラインワンツレーベン育種株式会社が育成したデント種×フロント種の単交配一代雑種である。1999年にホクレン農業協同組合連合会が導入し, 2000年より「HK9851」の系統名で各種の試験を行い, 2004年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期および収穫時熟度は「オーロラ82」並で、総体の乾物率は「オーロラ82」よりやや高い。熟期は「オーロラ82」と同じ早生の中である。
2. 初期生育は「オーロラ82」並である。稈長は「オーロラ82」よりやや高く、着雌穂高は「オーロラ82」並である。耐倒伏性は「オーロラ82」並である。
3. すず紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」並で「オーロラ82」よりやや弱い。ごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイ

ゲン」及び「オーロラ82」より強い。

4. 乾総重、推定TDN収量は「オーロラ82」より多く、乾雌穂重割合は「オーロラ82」よりやや高い。推定乾物中TDN 割合は「オーロラ82」並である。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央北部、十勝及び網走地域である。すす紋病抵抗性が「オーロラ82」よりやや弱いので、連作を避け、適正な肥培管理を行う。

試験場名	品 種 名	初 期 育 (9極良- 1極不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北 見 農 試	チ ベ リ ウ ス	5.9	8. 8	15.0	黄初～中	1,699	1,225	106	25.7	72.1	2001～2003
	オ ー ロ ラ 82	6.0	8. 9	0.0	黄初～中	1,610	1,157	100	23.6	71.7	
十 勝 農 試	チ ベ リ ウ ス	5.6	8. 2	0.7	黄初	1,755	1,274	110	27.6	72.6	2001～2003
	オ ー ロ ラ 82	5.8	8. 2	2.0	黄初	1,608	1,155	100	26.7	71.9	
上 川 農 試	チ ベ リ ウ ス	7.1	7.23	0.0	黄初～中	2,073	1,495	117	28.1	72.1	2001～2003
	オ ー ロ ラ 82	7.1	7.24	0.0	黄中	1,784	1,283	100	25.7	71.9	

参照 1)北海道農政部編，平成16年普及奨励ならびに指導参考事項，20-21 (2004)。

(28) ネオ85 (系統名 TH9952) 2004年

登録番号：(北海道)とうもろこし(飼)輸交
第27号

セールスポイント

やや多収で、耐倒伏性が強く、ごま葉枯病抵抗性がやや強い早生品種である。

来歴 本品種は、ドイツのクラインワンツレーベン育種株式会社が育成したデント種×フリント種の単交配一代雑種である。1999年にタキイ種苗株式会社が導入し、2000年より「TH9952」の系統名で各種の試験を行い、2004年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「ディアHT」より2日遅く、収穫時

熟度及び総体の乾物率は「ディアHT」並である。熟期は早生の晩である。

2. 初期生育は「ディアHT」並である。稈長及び着雌穂高は「ディアHT」並である。耐倒伏性は「ディアHT」並である。
3. すず紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」より強く「ディアHT」並である。ごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」及び「ディアHT」より強い。
4. 乾総重、推定TDN収量は「ディアHT」よりやや多く、乾雌穂重割合及び推定乾物中TDN割合は「ディアHT」並である。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央北部、十勝中部及び網走内陸地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 育 (9極良- 1極不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北 見 農 試	ネ オ 8 5	4.7	8.13	0.0	黄 初	1,550	1,090	104	23.0	70.4	2001～2003
	デ ィ ア H T	5.5	8. 9	0.0	黄 初	1,484	1,051	100	24.4	70.8	
十 勝 農 試	ネ オ 8 5	4.3	8. 5	0.7	黄 初	1,664	1,196	108	26.3	71.8	2001～2003
	デ ィ ア H T	4.9	8. 3	0.0	黄 初	1,557	1,111	100	26.8	71.4	
上 川 農 試	ネ オ 8 5	6.0	7.26	0.0	黄初～中	2,011	1,428	113	25.8	71.0	2001～2003
	デ ィ ア H T	6.1	7.25	0.0	黄初～中	1,772	1,260	100	26.4	71.1	

参照 1)北海道農政部編，平成16年普及奨励ならびに指導参考事項，22-23 (2004)。